



白黒つけま

自然が好き、歴史が好き、人間が好き、  
だから今、日光の再生を！

平成 17年2月27日発行

# いなば卓夫ニュースレター

## 合併問題を考える

☆☆☆☆☆☆☆☆  
☆☆☆☆☆☆☆☆

日光市議会議員  
稲葉卓夫後援会事務局

〒321-1404 日光市御幸町 578

TEL 0288(50)3178

FAX 0288(50)3181

携帯 090(2323)0667

e-mail t-inaba@plum.plala.or.jp

## 良識ある日光市民のみなさまに 私は借金のための合併に反対します。



3月2日より3月議会が始まります。予算議会であり、17年度予算を審議します。過日発表された執行部案は歳入歳出が77億9000万円です。歳出のうち借金返済は9億9687万円にもものぼります。これらも当時、有利と言われて借金したものです。日光の借金残高は138億円もあり、5市町村合計では765億円にもおよびます。合併をして更に特例債という借金を297億円もしようとしています。合計すると1062億円の借金になります。破綻まじかと言われていた篠山市の1200億円に迫ります。また、特例債のうち使途が決まっているのはごみ焼却場建設に90億円（生ごみは再利用すべき）だけで、残りの207億円の使途は決まっていません。新庁舎建設に120億以上もかけて豪華なものをつくられたらたまりません。

今回の合併がおかしいと市民が気づきはじめたのは全て「行政」と「職員」のための合併であることがわかってきたからです。総務省のお役人、県庁の職員、そして市の職員。これらの人は皆さんが納めた税金で生活している人なのです。公務員は公僕でなくてはならないのです。それが日光市においては市の幹部職員が合併反対の納入業者に圧力と脅かしをかけています。納入業者は納税者であり、主従ということばは使いたくありませんが、市民が主人です。市職員は市長から雇われていると誤解し、職員も市長も市民から雇われていることを全く忘れているようです。正に市民が主人公なのですが。

そして、行政側と合併賛成議員は「合併しなければやっていけない」と言いますが、今までどんな行財政改革の努力をしたのでしょうか。今の体質では合併してもやっていけません。今こそ日光市民が一丸となって日光1200年余の歴史の重さを認識して街づくりに立ち上がる時だと思えます。

市民のみなさまの良識に訴えたいと思えます。

日光市民のみなさまに



小さいからこそ  
輝く自治体  
ガンバレ NIKKO!  
信州 長野県知事  
田中 康夫

メッセージより 「合併すると交付税は激減します」 (中略) そして交付税と呼ばれるもの、つまり国から各自治体に分け与えられるお金は合併した市町村は合併しなかった市町村よりも15年を超えると交付税の額は激減します。合併をしなかった場合の方が交付税の額は保たれ、合併した場合よりも高い金額が保証されているのです。長野県では合併後20年間の財政状況の予測を出してくださいと言っています。しかしながら多くの都道府県では合併後10年間の財政の予測しか出していない。